

わたしにできること

小 四

わたしには、足が不自由で車いすに乗って生活をしている弟がいます。

弟は生まれつきの病気で、七か月になるまで、一度もたい院できずに、病院でたくさんの手じゅつをしました。そんな弟が、たい院して家に帰って来てくれたときは、とびはねるほどうれしかったです。

歩けない弟は、家ではハイハイでいどうします。手を使って、ゆっくりゆっくりのいどうです。他の子とは少しちがうけれど、大好きな弟です。家族で出かけるときに、ハイハイで

のいどうがおそくてイライラしたり、階だんで行った方がはやいところを、遠回りしてエレベーターで行かなければならないので、「またか、いやだなあ。」という気持ちになったりすることもあります。でも、弟はエレベーターで遠回りして行くしか方法がないのです。そう思うと、わたしは、いつも自分のことだけしか考えていなかったことに気が付きました。これからはもっと、大好きな弟のことを一番に考えて、行動していこうと決めました。

しょう害は、弟のように足が不自由であることだけではありません。耳が聞こえない人、目が見えない人、手が不自由な人、見た目では分からないけれど、心ぞうとか、内ぞうにしょう害

のある人もいます。いろいろなしょう
害があるけれど、しょう害は少し不便
なことがあるだけで、特別なことでは
ありません。

わたしたちが、目が悪くなったらめ
がねをかけて、見えやすくすることと
同じことだと思えます。耳の聞こえな
い人は、手話で会話をします。目の見
えない人は、点字で文字を読んだり、
会話をしたりすることができません。足
が不自由な人は、車いすやつえなどを
使うことで、生活しやすくなります。

わたしは、しょう害のある人がこ
まっていたら、声をかけて助けたいで
す。荷物を重そうに持っている人を見
かけたら、持ちたいです。目の見えな
い人がこまっていたら、わたしにでき

ることを考えて、少しの不便さを助け
たいです。

弟にしょう害があり、わたしにとつ
て、しょう害のある人が身近にいるか
らこそ、みんながいつしよに笑顔で生
活できることを考えていきたいです。

人という字は、おたがいがささえ
合つてできた文字です。人は一人では
生きていけません。周りの人たちが思
いやりの気持ちをもつて、ささえ合っ
ていくことが大切です。

みやざわしょうじ
宮澤章二さんの詩の中に、「思いは

見えないけれど、思いやりは見える」
という言葉があります。思いやりは、
少しの勇氣をもつことで見えてきます。
こまっている人がいたら、やさしく
言葉をかけて手助けしてほしいです。

そして、弟だけでなく、世界中のみんなが笑顔で生活できるようになっしてほしいです。